

デザインの手で、きっと社会は変えられる

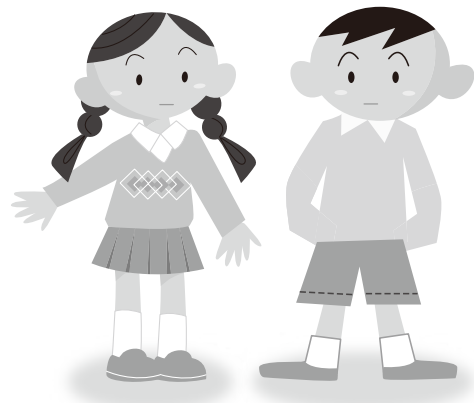
子どもデザイン教室 広報担当
和田青葉(37期卒業生)

『ソーシャルデザイナー』って？

みなさんは、ソーシャルデザイナーという言葉を知っていますか？【social】=社会的な【designer】=デザインをする人。しかし、ここでの「デザイン」とは、人間の行動をより良いかたちで適えるために、「計画」し、目的を実現することに携わる全てのことを指します。つまり、「ソーシャルデザイナー」とは、社会問題を解決するための取り組みをする人、ということです。

ソーシャルデザイナーの仕事

一口に社会問題と言ってもたくさんあります。ホームレス、省エネ、原発、ソーシャルゲーム……。私が取り組んでいるソーシャルデザイナーの仕事は、様々な理由で、親と一緒に暮らせない子どもたちの社会的排除を改善することです。社会的排除とは、成人後の貧困、社会ネットワークからの断絶、権利の剥奪・未保障、否定的なアイデンティティといった経済的・社会的・政治的・文化的排除のことを指します。



その背景

親の貧困や病気、虐待が原因で、家庭で暮らせない子どもたちが全国には約47,000人おり、そのうちの43%に虐待や育児放棄を受けた経験があります。こうした子どもたちは、学習機会の喪失と愛情の枯渇が原因で、子どもたちが低学力=低能力な訳ではありません。また、子どもたちの多くは身寄りがなく、お金もない状態で、基本的に15~18歳で措置解除(国による養育費用の打ち切り)をされます。そして、このことが貧困層を自然に形作ってしまったり、悪条件での不良就労、ホームレス化などの社会的排除に繋がっています。

ソーシャルデザイナーとして私がしていること

私が働いている「子どもデザイン教室」では、学校の教科書を題材にイラスト・絵本・アニメを制作するレッスンを、児童養護施設・里親委託の子どもたちに提供しています。この「学習×造形プログラム」の目的は創造力(企画・設計力)の発育と、コンピュータやプレゼン技能の習得です。こうして子どもたちの、①学力の向上と心身の安定を計り、②生活力の向上を促進し、③将来の巣立ちを計画的に準備しています。

子どもデザイン教室は、社会的養護が必要な子どもたちの、学習支援(デザインや勉強を教える)・資金支援(お金を貯める)・就労支援(仕事を見付ける)事業です。私は広報担当なので、子どもたちが生み出す作品を商品化し、この主旨に賛同して下さる支援法人と共に、商品を製造・販売しています。

こうすることで社会はどう変わるのか？

まず、支援法人は収益が向上し、社会貢献にもなります。社会には、福祉が拡大・増大し、経済が活性化します。さらに、人間不信に陥っている子どもたちは、社会参加することで信頼を回復していきます。そして、その収益金の一部を活動資金にします。①学習支援として「子どもデザイン教室」の運営する、②資金支援として学費・生活費の貯蓄をする、③就労支援として支援企業への就職・自立支援をすることができます。



社会を変えるということ

社会を変えるとは、あまりにも規模が大きすぎることでしょうか？ある日、両親に捨てられた小学校4年生の女の子がつぶやきました。『なんもええことあらへん、生まれ変わったら、お母さんと一緒に暮らしたい』と。私たちは、親と一緒に暮らせない子どもたちが『生まれてきてよかった』と思える社会に「私たちで変えられる」と信じています。そして、小さな一つ一つの変化が、やがて大きな変化になると思います。

さいごに

私は、清教学園普通科理系コースを卒業し、近畿大学農学部食品栄養学科に進み、栄養士免許と高校理科

教員免許を取りました。英検も、健康食品管理士資格も取りました。しかし私は、栄養士にも、教師にもなりません。ですが、何も無駄なことはありません。子どもたちに勉強を教えるとき、教員免許を取るときに勉強したことがとても役立ちます。将来、栄養士免許を利用して、子どもたちが描いた絵のギャラリーとカフェを運営しようとも思っています。職種は関係なくても、努力はいつか報われます。将来の自分にとって、何が役に立って、何が役に立たないのかは、今は分かりません。将来には関係ないからといって、チャレンジせずにいると、何もできなくなります。可能性を少しでも広げて、何でもチャレンジしてみる。そして結果を出す。せっかくの学生時代、資格を取ったり、外国へ行ったりして、多くの引き出しを身につけていることが重要です。様々なことにチャレンジしてみてください。

※ホームページ開設しています。

<http://www.c0d0e.com>

Navi委員会からの質問



Q1.高校時代は文系、理系、その他の課程に属していましたか？

A1.普通科理系コースです。

Q1.その職業に就くことを決意したのはいつですか？

A1.私がこの職業に就こうと決断したのはとても遅く、大学4年生の秋でした。栄養士になろうと就職活動は続けていたものの、全く決まらなかったときに、父親である理事長に『子どもデザイン教室の仕事を手伝って』と言われたのがきっかけです。どうせやるなら人と係わり、誰かの役に立つ仕事なら…と思いました。大学時代は塾講師、テーマパークのクルー、カフェ店員と色々な立場で働きましたが、やっぱり『人の笑顔に直接立ち会える仕事』をしたかったのです。